

科目名	解剖学ⅢA					単位数	2	時間数	30	
授業形態	講義	対象学生	OT/PT 1年	学期	前期	教員実務経験	有	使用教室	3階基礎医学実習室	
授業概要	解剖学は、人体の構造と機能を理解する学問であり、医学の基礎である。本講義では、運動器系の基礎となる骨と関節について、講義や小グループによる演習を行って学習する。									
一般目標	①骨の名称や部位名など骨に関する基礎知識を習得する。また、各骨の構造の特徴など基本的構造について知識を習得する。 ②頭部、四肢、体幹に存在する関節の名称と構造の概要について知識を習得する。									
テキスト 参考書等	教科書：プロメテウス解剖学 コア アトラス 最新版（医学書院）/PTOT基礎固めヒント式トレーニング 基礎医学編 最新版（南江堂） 参考書：解剖学講義 南山堂、系統看護学講座専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能①（医学書院）									

到達目標		
知識(認知領域) ・骨の構造、名称、部位名称、特徴を覚えることができる。また、骨模型を模写できる。 ・関節の構造、名称を覚えることができる。		
技術(精神運動領域) ・骨模型を使用して、名称、部位名称を説明できる。		
態度(情意領域) ・授業に意欲的に参加できる。 ・課題(指定された骨をスケッチブックに模写する)を完成し、提出できる。		
回数	授業内容	授業目標
1	解剖学総論	骨解剖を学ぶにあたり基礎的な医学的用語を理解し説明できる。
2	骨学総論(骨格系)	骨の構造や発生について総論的に理解し説明できる。
3	全身骨格	骨格全体の成り立ちを把握するとともに、個々の骨の名称や数を説明できる。
4	骨と関節1(鎖骨・肩甲骨)	鎖骨、肩甲骨の各部位の名称や構成の特徴について説明できる。
5	骨と関節2(上腕骨)	上腕骨の各部位の名称や構成の特徴について説明できる。
6	骨と関節3(尺骨・橈骨)	尺骨・橈骨の各部位の名称や構成の特徴について説明できる。
7	骨と関節4(手の骨)	手部の骨の各部位の名称や構成の特徴について説明できる。
8	骨と関節5(胸骨・肋骨)	胸骨・肋骨の各部位の名称や構成の特徴について説明できる。
9	骨と関節6(頭蓋骨)	頭蓋骨の各部位の名称や構成の特徴について説明できる。
10	骨と関節7(寛骨)	寛骨の各部位の名称や構成の特徴について説明できる。
11	骨と関節8(大腿骨・膝蓋骨)	大腿骨・膝蓋骨の各部位の名称や構成の特徴について説明できる。
12	骨と関節9(脛骨・腓骨)	脛骨・腓骨の各部位の名称や構成の特徴について説明できる。
13	骨と関節10(足の骨)	足部の骨の各部位の名称や構成の特徴について説明できる。
14	骨と関節11(椎骨・仙骨・尾骨)	椎骨・仙骨・尾骨の各部位の名称や構成の特徴について説明できる。
15	まとめ	骨解剖学(総論、上肢、下肢)について復習し、各部位を説明できる。また、課題を完成させることができる。

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上
小テスト				評価なし	優(3):80～89点
宿題授業外レポート				評価なし	良(2):70～79点
授業態度				評価なし	可(1):60～69点
発表・作品		○		評価なし	不可(0):60点未満 未修得
演習				評価なし	()内はGPA点数
出席			○	欠格条件	
担当教員	東野 幸夫		実務経験紹介	病院・介護施設での勤務において骨・関節疾患の治療に携わった経験がある。	

科目名	解剖学ⅢB					単位数	2	時間数	30	
授業形態	講義	対象学生	OT/PT 1年	学期	前期	教員実務経験	有	使用教室	205・206教室	
授業概要	解剖学は、人体の構造と機能を理解する学問であり医学の基礎となっている。本講義では、運動器系の基本となる筋について学習する。									
一般目標	①骨格筋の一般的な構造と機能についての知識を習得する。 ②人体の主要な骨格筋について、その構造(起始・停止、走行、神経支配など)を知り、その作用についての知識を習得する。									
テキスト 参考書等	教科書:プロメテウス解剖学 コアアトラス 最新版(医学書院)/PTOT基礎固めヒント式トレーニング 基礎医学編 最新版(南江堂) 参考書:解剖学講義(南山堂)/系統看護学講座専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能①(医学書院)									

到達目標		
知識(認知領域) ・筋:筋の名称、起始、停止、作用、神経支配を覚え、筋模型で説明できる。 ・筋の構造上の特徴を覚え、説明できる。		
技術(精神運動領域) ・なし		
態度(情意領域) ・授業に積極的に参加することができる。 ・授業に出席する。		
回数	授業内容	授業目標
1	筋学総論、運動方向の名称	・筋組織の種類や特徴、骨格筋の基本的構造について説明することができる。 ・骨格筋の生理的作用や筋による運動方向などの基本的作用について説明できる。
2	肘関節に作用する筋	・肘関節周囲の各筋の名称や構造について説明することができる。
3	肩甲上腕関節の筋	・肩甲上腕関節周囲の各筋の名称や構造について説明することができる。
4	上肢帯の筋	・上肢帯の各筋の名称や構造について説明することができる。
5	手外在筋①	・手外在筋に含まれる筋の名称と構造について説明することができる。
6	手外在筋②	・手外在筋に含まれる筋の名称と構造について説明することができる。
7	手内在筋	・手内在筋に含まれる筋の名称と構造について説明することができる。
8	内・外寛骨筋	・内・外寛骨筋の各筋の名称や構造について説明することができる。
9	深層外旋六筋	・深層外旋六筋について各筋の名称と構造について説明することができる。
10	大腿前面の筋	・大腿前面の各筋の名称や構造について説明することができる。
11	大腿後面、内側の筋	・大腿後面、内側の各筋の名称や構造について説明することができる。
12	下腿前面、外側面の筋	・下腿前面、外側面の各筋の名称や構造について説明することができる。
13	下腿後面の筋	・下腿後面の各筋の名称や構造について説明することができる。
14	足底、背部、腹部の筋	・足部、背部、腹部の各筋の名称や構造について説明することができる。
15	顔、頸部の筋	・顔、頸部の各筋の名称や構造について説明することが出来る。

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上
小テスト	○			評価なし	優(3):80～89点
宿題授業外レポート				評価なし	良(2):70～79点
授業態度				評価なし	可(1):60～69点
発表・作品				評価なし	不可(0):60点未満 未修得
演習				評価なし	
出席			○	欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	石丸 拓也		実務経験紹介	病院勤務において、筋の治療に携わった経験あり	

科目名	解剖学ⅢC					単位数	2	時間数	30	
授業形態	講義	対象学生	OT/PT 1年	学期	後期	教員実務経験		有	使用教室	治療室
授業概要	医療の対象であるヒトを理解するためには、人体の構造と機能の学習がその第一歩となる。この実習では、以下を目標に学習する。									
一般目標	①評価・治療の指標となる骨を正確に触察できる技術を習得する。 ②筋を正確に触察できる技術を習得する。									
テキスト 参考書等	【教科書】機能解剖学的触診技術 第2版 上肢／下肢・体幹（メジカルビュー社） 【参考書】基礎運動学(医学書院) プロメテウス解剖学 コア アトラス 第4版 医学書院									

到達目標		
知識(認知領域) ①筋:筋の名称、起始、停止、作用、神経支配・走行を覚え、筋模型で説明できる。 ②筋の構造上の特徴を覚え、説明できる。		
技術(精神運動領域) ①筋の走行を正確に触診することが出来る。 ②患者に不快感を与えない触り方が出来る。		
態度(情意領域) ・授業に積極的に参加することができる。 ・患者に不快感を与えない立ち居振る舞いが出来る。		
回数	授業内容	授業目標
1	触察:オリエンテーション	あらゆる運動機能系評価の基礎となる骨・筋の触診について、その概要・意義を理解することができる。
2	触察:上肢の骨	上肢骨のランドマークを触診することができる。
3	触察:上肢帯の筋	上肢帯の筋について、その起始・停止・筋走行を正しい筋収縮を行わせつつ触診ができる。
4	触察:上肢の筋	上肢の筋について、その起始・停止・筋走行を正しい筋収縮を行わせつつ触診ができる。
5	触察:前腕の筋	前腕の筋について、その起始・停止・筋走行を正しい筋収縮を行わせつつ触診ができる。
6	触察:手指の筋	手指の筋について、その起始・停止・筋走行を正しい筋収縮を行わせつつ触診ができる。
7	触察:頸部の筋	頸部の筋について、その起始・停止・筋走行を正しい筋収縮を行わせつつ触診ができる。
8	触察:下肢の骨・靱帯	下肢骨のランドマーク、靱帯を触診することができる。
9	触察:骨盤帯の筋	骨盤帯の筋について、その起始・停止・筋走行を正しい筋収縮を行わせつつ触診ができる。
10	触察:大腿の筋	大腿の筋について、その起始・停止・筋走行を正しい筋収縮を行わせつつ触診ができる。
11	触察:足部の骨	足部の筋について、その起始・停止・筋走行を正しい筋収縮を行わせつつ触診ができる。
12	触察:下腿の筋	下腿の筋について、その起始・停止・筋走行を正しい筋収縮を行わせつつ触診ができる。
13	触察:体幹の筋	体幹の筋について、その起始・停止・筋走行を正しい筋収縮を行わせつつ触診ができる。
14	触察:まとめ	実技試験に備え上肢の筋について復習し、理解を深めることができる。
15	触察:まとめ	実技試験に備え下肢の筋について復習し、理解を深めることができる。

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○	○	○	100	秀(4):90点以上
小テスト				評価なし	優(3):80～89点
宿題授業外レポート				評価なし	良(2):70～79点
授業態度				評価なし	可(1):60～69点
発表・作品				評価なし	不可(0):60点未満 未修得
演習				評価なし	
出席			○	欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	石丸 拓也		実務経験紹介	病院勤務において、筋の治療に携わった経験あり	

科目名	運動学Ⅰ					単位数	2	時間数	30	
授業形態	講義	対象学生	PT/OT 1年	学期	後期	教員実務経験	有	使用教室	205・206教室	
授業概要	解剖学・生理学を基礎として、関節運動に関わる身体の構造や、上肢・頸部・顔面・胸部の関節運動が起こるメカニズムについて学ぶ。									
一般目標	上肢・頸部・顔面・胸部の関節運動について説明でき、そのメカニズムについての知識を身につける。									
テキスト 参考書等	基礎運動学 第6版 中村隆一 著(医歯薬出版) 運動学テキスト 改訂第2版(南江堂)									

到達目標		
知識(認知領域) 各関節の構造の特徴と機能について説明できる。 各関節運動の主動作筋、補助動作筋、拮抗筋を列挙できる。		
技術(精神運動領域) なし		
態度(情意領域) 授業に出席し、主体的に参加できる。		
回数	授業内容	授業目標
1	肩関節の機能と構造①	肩関節の構造と機能について説明できる。 肩関節の動きが筋や靱帯で説明できる。
2	肩関節の機能と構造②	肩関節の構造と機能について説明できる。 肩関節の動きが筋や靱帯で説明できる。
3	肩関節の機能と構造③	肩関節の構造と機能について説明できる。 肩関節の動きが筋や靱帯で説明できる。
4	肘関節の機能と構造①	肘関節の構造と機能について説明できる。 肘関節の動きが筋や靱帯で説明できる。
5	肘関節の機能と構造②	肘関節の構造と機能について説明できる。 肘関節の動きが筋や靱帯で説明できる。
6	肘関節の機能と構造③	肘関節の構造と機能について説明できる。 肘関節の動きが筋や靱帯で説明できる。
7	手関節・手指の機能と構造①	手関節・手指の構造と機能について説明できる。 肘関節の動きが筋や靱帯で説明できる。
8	手関節・手指の機能と構造②	手関節・手指の構造と機能について説明できる。 肘関節の動きが筋や靱帯で説明できる。
9	手関節・手指の機能と構造③	手関節・手指の構造と機能について説明できる。 肘関節の動きが筋や靱帯で説明できる。
10	頸椎の機能と構造①	頸椎の構造と機能について説明できる。 頸椎の動きが筋や靱帯で説明できる。
11	頸椎の機能と構造②	頸椎の構造と機能について説明できる。 頸椎の動きが筋や靱帯で説明できる。
12	顔面の機能①	顔面の構造と機能について説明できる。 表情や咀嚼が筋や靱帯で説明できる。
13	顔面の機能②	顔面の構造と機能について説明できる。 表情や咀嚼が筋や靱帯で説明できる。
14	胸部の機能と構造①	胸部の構造が理解できる。 胸部の動きが筋や靱帯で説明できる。 呼吸運動について説明できる。
15	胸部の機能と構造② まとめ	胸部の構造が理解できる。 胸部の動きが筋や靱帯で説明できる。 呼吸運動について説明できる。

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上 優(3):80～89点 良(2):70～79点 可(1):60～69点 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGPA点数
小テスト				評価なし	
宿題授業外レポート				評価なし	
授業態度				評価なし	
発表・作品				評価なし	
演習				評価なし	
出席			○	欠格条件	
担当教員	東野 幸夫		実務経験紹介	作業療法士として臨床・教育経験を有する	

科目名	運動学Ⅱ					単位数	2	時間数	30	
授業形態	講義	対象学生	OT/PT 1年	学期	後期	教員実務経験	無	使用教室	205・206教室	
授業概要	解剖学・生理学を基礎として、関節運動に関わる身体の構造や、関節運動が起こるメカニズムについて体幹・下肢関節・歩行の知識を習得する。									
一般目標	体幹・下肢の関節運動について説明でき、正常歩行の特徴についての知識を身に付けることができる。									
テキスト 参考書等	・基礎運動学(医歯薬出版) ・運動学テキスト(南江堂)									

到達目標		
知識(認知領域) ①各関節の構造の特徴と機能について説明できる。 ②各関節運動の主動作筋、補助動作筋、拮抗筋を列挙できる。 ③各関節運動のメカニズムを説明できる。 ④正常歩行に関する用語を正しく使用し、歩行運動を説明できる。 技術(精神運動領域) なし 態度(情意領域) 授業に積極的に参加することができる。		
回数	授業内容	授業目標
1	股関節の運動 ①構造と機能	・骨盤環・仙腸関節・股関節の構造と機能について説明できる。
2	股関節の運動 ②筋の働き	・関節運動に関する用語について説明できる。 ・股関節運動に作用する筋について説明できる。
3	股関節の運動 ③運動メカニズム	・股関節運動の骨運動と関節運動について説明できる。
4	膝関節の運動 ①構造と機能	・膝関節の構造と機能について説明できる。
5	膝関節の運動 ②筋の働き	・膝関節運動に作用する筋について説明できる。
6	膝関節の運動 ③運動メカニズム	・膝関節運動の骨運動と関節運動について説明できる。
7	足関節の運動 ①構造と機能	・足関節の構造と機能について説明できる。
8	足関節の運動 ②筋の働き	・足関節運動に作用する筋について説明できる。
9	足関節の運動 ③運動メカニズム	・足関節運動の骨運動と関節運動について説明できる。
10	下部体幹の運動 ①構造と機能	・下部体幹(胸椎・腰椎)の構造と機能について説明できる。
11	下部体幹の運動 ②筋の働き	・下部体幹(胸椎・腰椎)運動に作用する筋について説明できる。
12	歩行の運動学 ①基本用語の確認	・歩行に関する基本用語について説明できる。 ・歩行周期について説明できる。
13	歩行の運動学 ②関節運動と重心移動	・歩行中の下肢関節運動について説明できる。 ・歩行中の重心移動・床反力について説明できる。
14	歩行の運動学 ③筋活動	・歩行中の筋活動について説明できる。
15	まとめ	・確認テストを通して下肢・下部体幹・歩行の運動学の基本についてまとめることができる。

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上
小テスト				評価なし	優(3):80～89点
宿題授業外レポート				評価なし	良(2):70～79点
授業態度				評価なし	可(1):60～69点
発表・作品				評価なし	不可(0):60点未満 未修得
演習				評価なし	
出席			○	欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	東野 幸夫		実務経験紹介	作業療法士としての臨床経験および教育経験を10年以上有している	

科目名	リハビリテーション概論				単位数	2	時間数	30	
授業形態	講義	対象学年	OT/PT 1年	学期	前期	教員実務経験	有	使用教室	205・206教室
授業概要	リハビリテーションの歴史、理念について学習する。障害モデルと生活機能モデルを身近な方を例に挙げながら整理し、リハビリテーション専門職とチームアプローチなどについて学習する。 リハビリテーションに関連する社会保障制度や法規について学習する。								
一般目標	リハビリテーションの理念と、リハビリテーション医療の特徴を理解する。障害モデルと生活機能モデルを理解する。 リハビリテーション専門職とチームアプローチについて理解する。 基本的な社会保障制度の概要について修得する。								
テキスト 参考書等	教科書 リハビリテーション概論のいろは(南江堂) 参考図書 ICF 国際生活機能分類 国際障害分類改訂版 (中央法規出版)								

到達目標		
知識(認知領域) ・リハビリテーションの理念、4つの分野を説明できる。 ・リハビリテーション医療の特徴を説明できる。 障害モデル図、生活機能モデル図を書ける。 ・チームアプローチとは何か説明できる。代表的なリハビリテーション専門職とその役割について説明できる。 ・各制度の概要について基本的な説明をすることができる。		
技術(精神運動領域) ・なし		
態度(情意領域) ・積極的に授業に参加することが出来る。		
回数	授業内容	授業目標
1	リハビリテーションの意味・歴史・定義等	リハビリテーションの本来の意味を説明するためのキーワードを言うことができる。 リハビリテーション理念に影響を与えた国際的な活動を4つ以上挙げ、簡単に説明することができる。
2	リハビリテーションの必要性①	リハビリテーションの4つの分野、リハビリテーション医学・医療の特徴、地域リハビリテーションの定義を言うことができる。
3	リハビリテーションの必要性②	障害モデル(ICIDH)図を書ける。 ICIDHの問題点があげられる。
4	リハビリテーションの必要性③	ICIDH→ICF改定のポイントをあげられる。 ICFモデル図(簡単版)を書ける。
5	リハビリテーションとチーム医療	チームアプローチとは何か説明できる。 チームアプローチの促進因子を挙げることが出来る。
6	リハビリテーション医学	リハビリテーション医学に関連する人体の仕組みを説明できる。
7	リハビリテーション工学	リハビリテーション工学について説明できる。 自具、歩行補助具、車いす、コミュニケーション支援機器、ロボティクスについて説明できる。
8	栄養とリハビリテーション	五大栄養素を列挙し、それぞれの役割を説明できる。 消化や吸収について説明できる。
9	社会保障制度とは 社会福祉とは	社会保障とはなにか説明できる。 福祉とはなにか説明できる。
10	児童福祉、社会保険、公的扶助	児童福祉の概要を説明し、利用できるサービスを列挙することができる。 社会保険と公的扶助の概要を説明し、利用できるサービスを列挙することができる。
11	障害者福祉1	障害を取り巻く概念(ICF、バリアフリー、ユニバーサルデザインなど)を説明できる。
12	障害者福祉2	障害者総合支援法を中心に、障害者福祉の概要を説明できる。 障害者支援法・障害者手帳で利用できるサービスを列挙することができる。
13	医療保険制度	日本の医療制度の概要を説明できる。
14	介護保険制度	高齢化の現状、高齢者の現状について説明できる。 介護保険の概要を説明し、利用できるサービスを列挙することができる。 介護保険サービス以外の高齢者サービスを列挙できる。
15	地域包括ケアシステム まとめ	自助、互助、共助、公助について説明できる。 事例を通し、現在日本の社会保障制度下で利用できる制度やサービスを列挙できる。

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上
小テスト				評価なし	優(3):80～89点
宿題授業外レポート				評価なし	良(2):70～79点
授業態度				評価なし	可(1):60～69点
発表・作品				評価なし	不可(0):60未満 未修得
演習				評価なし	
出席			○	欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	藤井 昭宏		実務経験紹介	理学療法士として10年間、急性期病院で勤務	